

幼児の豊かな身体表現の出現

—ダンボールの有用性—

Appearance of the rich expressive body movement of the infant.

—Usefulness of the corrugated cardboard—

高原 和子・瀧 信子*・矢野 咲子*・青木 理子**

小川 鮎子***・小松 恵理子****

Kazuko Takahara・Nobuko Taki・Sakiko Yano・Riko Aoki

Ayuko Ogawa・Eriko Komatsu

キーワード：身体表現, 環境設定, ダンボール遊び

はじめに

先行研究において、幼児が自発的に楽しくからだを動かすことができる環境設定の検討を目的として、身近にある素材「ダンボール」に着目し、ダンボールを使った遊びを実践した。その実践の中で見られた幼児の操作の動き（動作）を、石河ら^{1, 2)}の基本的な動作の分類項目を参考に検討した。その結果、ダンボールを利用した遊びの特徴として「移動動作」の中の「回避動作」が多数見られたほか、操作動作の中の「荷重動作」と移動動作の中の「水平動作」を組み合わせた「複合動作」が、ダンボールを利用した遊びの特徴として出現した³⁾。

また、自由遊びにおけるダンボールの有用性について「幼児期運動指針」⁴⁾で取り上げられている3つの要点、①「多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること」、②「楽しく体を動かす時間を確保すること」、③「発達の特徴に応じた遊びを提供すること」に照らし合わせた検討では、次のような結果が示唆された。①については、ダンボール遊びの動作の分類結果から、安定性8種類、移動動作22種類、操作動作22種類、複合動作25種類の多様な操作と動きが見られ、1人で行った動作57種類、2人以上で協

力して行った動作20種類が確認された。このことから、ダンボール遊びは自由遊びの中でも多様な操作や動作を引き出し、一人または複数で遊ぶことが可能な素材であることが判った。②については、設定した時間（30分）の中で、ダンボールを活かして創意工夫しながら途切れることなく楽しく遊ぶ幼児の姿が捉えられ、このことから、ダンボールは幼児が十分楽しみながら遊び込むことができる素材であることが確認できた。③については、ダンボールの形状を板状のまま使用したり、箱状に近い形で使用したり、また2枚以上を組み合わせて使用するなど一人で巧みに操作することができていた。また、仲間同士でダンボールを組み合わせて創意工夫している姿も多数見られた。このことから、ダンボール遊びは、対象とした5歳児の発達の特性に応じた遊びであることが確認できた⁵⁾。

これらのことから、ダンボールを利用した環境設定は、幼児自ら操作方法を工夫しながら、仲間と遊びを共有し、新しい動きに挑戦し続けることができる有効な運動プログラムであることが示唆された^{3, 5)}。

このように様々な動きを繰り出しダンボール遊びを楽しんでいる幼児を観察していると、様々なイメージを持って遊び込んでいる様子も認められ、ダンボール

*福岡こども短期大学

**久留米大学

***佐賀女子短期大学

****鹿児島女子短期大学

遊びは幼児の想像性を刺激する遊びであることも捉えられた。保育内容「表現」の内容に「いろいろな素材（や用具）に親しみ、工夫して遊ぶ」とある。ダンボール遊びはまさしくこの内容を具体化したものであると考える。

そこで本研究では、幼児において動きやイメージを引き出す素材としてのダンボールの有用性を明らかにすることを目的として、ダンボール遊びの中で幼児はどのようにイメージを膨らませ遊び込むことができるのか検討することとした。

方 法

(1) 研究対象

保育園・幼稚園・こども園に通う5歳児160名（幼稚園2園，保育所2園，こども園3園）を対象とし、それぞれの園においてダンボールを使った遊びを実施した（表1）。

表1 対象園と人数，使用場所

対象園	人数	使用場所
Aこども園	18名	ホール
Bこども園	8	保育室
Cこども園	21名 20名	ホール
D幼稚園	30名	プレイルーム
E幼稚園	25名	ホール
F保育所	18名	ホール
G保育所	20名	ホール

(2) 調査方法

調査にあたっては、自由に扱えるように開いた状態

のダンボール（一部筒型や箱型を含む）を幼児の人数分用意し、筆者それぞれが各園を訪問し実施した。使用する場所については、広さは特に指定せず、参加する幼児の人数に応じた各園で使用できる場所で実施した（表1）。また、環境設定については、開いた状態のダンボールをフロアーに立て、幼児の目にとまるように配置した。

遊びの時間は30分間で、遊びの内容に関しては、幼児の自主性に任せた。ただし、事前に①30分間自由にダンボールを使って遊ぶこと、②ダンボール以外の物は使わず、切ったり破ったりしないことの2点を幼児らに話した。なお、保育者および研究者（筆者）らは、指導や援助、声かけなどは行わず、安全管理と危険回避のみ行った。実施日は、2016年1月～3月である。

遊びの様子はビデオに収録し、その映像を基に、遊びの変化を記録した。記録は、ダンボールの使い方や形状、遊びの具体的な内容、仲間との関わりについて記録した。また、イメージを持って遊び込んでいる時の幼児の言葉やその様子から幼児がイメージしているものを推測した。

なお、本研究の実施にあつては、事前にそれぞれの園の保育者から保護者に対し研究の趣旨を説明し、ビデオ撮影の承諾と同意を得て実施した。また、その際、本研究における収録映像は、研究のみに使用することも伝えた。

結 果

今回の遊びの実践では、どの園においても幼児は途切れることなく30分間遊び続けることができ、様々なダンボールの操作とともに多様なからだの動きが検出された（図1）。その操作や動きは、幼児を取り巻く

図1 段ボール遊び実践の様子



身近な生活体験を取り入れたものや、全くそのものになりきって遊ぶ「模倣遊び」や「ごっこ遊び」であった。特にダンボールの形状の特徴からイメージを膨らませた模倣遊びが多く見られた。よく見られた遊びと主なダンボールの形状および動作は次のとおりである。

①日常生活（図2）

家・おふろ（立てて中に入る，囲いをつくる），布団・ベッド（上に寝る・乗る，かぶる）

②乗り物（図3）

バス・電車・馬車（からだを囲って動く，並べる，人を乗せて動かす）

③遊具・遊び（図4）

コーヒーカップ（中に入って回る），すべり台（斜めにして滑る），キャタピラー（横にして入る）

④構造物（図5）

トンネル（トンネルにしてくぐる，横にして中に入る，筒をつくって隠れる），積木（立てて置く，重ねる），迷路（立てた間を縫って走る）

⑤模倣遊び（図6）

動物（かぶって歩く・走る，からだに巻いて動く・這う，下にもぐって動く），怪獣（立てて蹴る，振り上げて振り下ろす，押し倒す）

⑥ごっこ遊び（図7）

お店屋さん（横に並べてやりとりする）

⑦スポーツ（図8）

ボーリング（たてて中に入る・倒す，振り回す，からだに巻いて横転する），ランニングマシン（上に乗ってその上を走るまねをする），サーフィン（片足を乗せて滑る）

⑧動き楽しむ遊び（図9）

雑巾がけ，横転

考 察

どの幼児も，ときに自分一人のイメージの世界にひたり，現実と虚構の世界を行ったり来たりしながら，からだ全体で自分のイメージを表現し，その喜びを味わっていた。また，仲間とイメージを共有して一緒に楽しんだりしながら，次から次に遊びを繰り返す。飽きることなく30分間動き続けていた。このことから，ダンボールを利用した遊びは，幼児の身体表現の表出

には，適した遊びであることが覗えた。また，ダンボールという素材の持つ可塑性は，幼児の想像性を刺激し，想像から創造へ，そして創造から新たな想像へと誘導することも考えられ，それが途切れなく遊びが続いていった要因であると示唆された。

まず，遊びの始まりはダンボールのいろいろな持ち方や置き方から始まっていった。そしてその持ち方や置き方から想像される遊びを短い時間単位の動きとして表出していった。その中で生まれたのが日常生活と結びつけた遊びであった。例えば，お風呂や布団といった表現である。幼児自身のそれまでの経験の中で一番身近にあるのは生活体験である。そのため，まずは，日常の生活体験としての動きや表現が出現したのと考えられる。そして，その中で幼児は自分のイメージや動きをみつけて表現する楽しさを知っていき，そのおもしろさに続く次の動きや表現を表出させていったものと考えられた。

そんな一人の短い時間単位の動きを繰り返すうちに，友だちと組んで行う表現に発展するケースへ繋がっていった。誰かが始めたことに賛同したかのように他の幼児が同じことを始め，そのうち何人かで組み，一人ではできない動きや表現をするといった様子が見られた。その例として，多く表出していたのが「家」や「秘密基地」である。特に「家」の表出はどの園でも見られた。5歳児は他の年齢の幼児と比べ自主創造的に遊びを発展できる年齢とされ^{6,7)}，仲間と一緒に一つの目的に向かって事をすすめることも可能であることから，このような遊びの発展が生まれたものと考えられる。

一方で，自ら表出できない幼児もみられた。そんなときは，他の幼児の動きや表現を真似たり，友だちのみつけた動きや表現に共感し，一緒に表現を楽しむ，といった行動をとっていた。そして，友だちのみつけた動きを認めあったり，まねして動くうちに新たな動きや表現を発見し，喜びを分かち合っていた。そんなことを繰り返すうちに，自分の動きをみつける手がかりとしていく様子も覗えた。このことから，表現の出ていく幼児でも，ダンボールという素材をとおして仲間とふれあい，喜びを分かち合うとともに，自分自身の表現する力を培っていくことが確認された。

このように，ダンボールを利用した遊びは，からだ

図2 ダンボール遊びで表出した身体表現（日常生活）

家
 ある女兒がダンボールを立てたのを見た他の女兒が加わり同じように立てて家をつくりはじめる。
 横やりが入って気分を害して、引っ越し
 再び立てはじめ、大きな家へ発展する。

おふろ・温泉
 顔を見合わせダンボールの縁を持ったり顔を隠したりする。

布団
 1枚を床に敷き、もう1枚を上からかぶせて、4人でその間に入り、寝そべる。



図3 ダンボール遊びで表出した身体表現（乗り物）

バス
 折りたたんだダンボールに友だちを乗せて高遣いで押す。

手押し車
 ダンボールの端を持ち上げ押しながら歩く。

電車
 2人で筒の中に入り歩く。

馬車
 2人でダンボールの端に座り馬車の御者の動きをする。

ヘリコプター
 ダンボールの端を持って振り回しながら移動する。



図4 ダンボール遊びで表出した身体表現（遊具・遊び）

ソリ遊び
 ダンボールに1人を乗せて、前後で押したり引いたりしながら進む。

すべり台
 立てたダンボールと開いたダンボールを組み合わせ、すべり台をつくる。

びっくり箱
 一旦立てたダンボールに隠れ、「バーン」と言いながら中から勢いよく出てくる。

三段重ね
 「三段ベッド」と言いながら、重なり合って遊ぶ。



図5 ダンボール遊びで表出した身体表現（構造物）



図6 ダンボール遊びで表出した身体表現（模倣遊び）



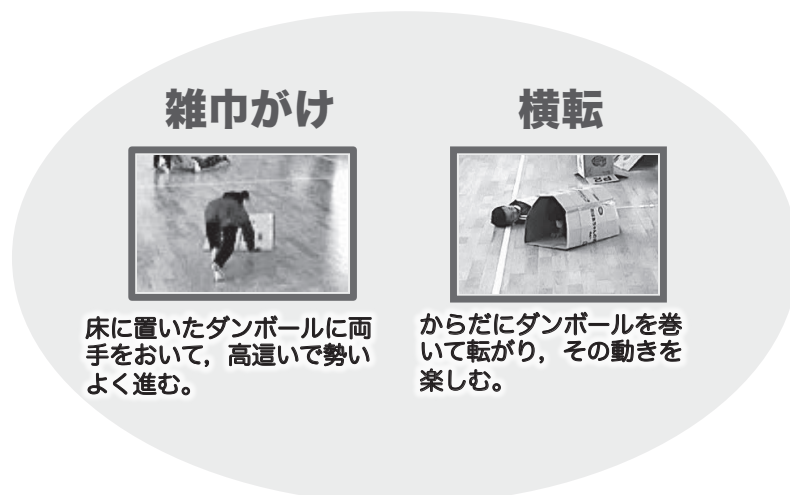
図7 ダンボール遊びで表出した身体表現（ごっこ遊び）



図8 ダンボール遊びで表出した身体表現（スポーツ）



図9 ダンボール遊びで表出した身体表現（動きを楽しむ）



の操作や動作を促すための有効な運動・身体活動プログラムのみならず、幼児が感じたり、考えたりしたことを思いのまま自由にのびのびと身体活動として表す「動きの表現（身体表現）」も引き起こすことが考えられた。そして、素材としてのダンボールは、その特有の質や形から想像性から創造性への刺激を受けやすく、扱うことの楽しさ、おもしろさが伝わり、自らが積極的に働きかける創造的な身体表現へ発展するきっかけを生むことが示唆された。

まとめ

本研究では、幼児において動きやイメージを引き出す素材としてのダンボールの有用性を明らかにすることと目的として、ダンボール遊びの中での幼児のイメージの表出に着目して検討した。その結果、次のことが確認できた。

①ダンボールを利用した遊びは、幼児が感じたり考えたりしたことを、思いのまま自由にのびのびと身体表現として表す「動きの表現（身体表現）」を引き起こす。

②ダンボールは、その特有の質や形から想像性から創造性への刺激を受けやすく、扱うことの楽しさ、おもしろさが伝わり、自らが積極的に働きかける創造的な身体表現へ発展するきっかけを生む。

今後、発達の特性に応じた遊びを提供することも重要である。よって、他の年齢の幼児（3歳児・4歳児）を対象としたダンボール遊びによる動きやイメージを引き出す素材としてのダンボールの有用性についても検討していきたい。

文 献

- 1) 石河利寛, 栗本関夫, 勝部篤美, 近藤充夫, 前川峯雄, 松田岩男, 森下はるみ, 清水達雄, 末利博, 高田典衛: 幼稚園における体育カリキュラムの作成に関する研究 I. カリキュラムの基本的な考え方と予備的調査の結果について. 体育科学. **8**, 150-155, 1980.
- 2) 財団法人体育科学センター: 幼児の体育カリキュラム. 株式会社学習研究社(学研), 東京, 20-23, 1986.
- 3) 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子, 高原和子: 5歳児にみられたダンボールあそびの実践報告. 九州体育・スポーツ学研究. **31** (1), 68, 2017.

- 4) 文部科学省幼児期運動指針策定委員会: 幼児期運動指針ガイドブック 毎日, 楽しく体を動かすために. 文部科学省. 2012.
- 5) 瀧信子, 矢野咲子, 怡土ゆき絵, 青木理子, 小川鮎子, 小松恵理子, 高原和子: 5歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要. **28**, 19-27, 2017.
- 6) 高橋真由美: 遊びにおける保育者・子ども関係の変容に関する研究. 教育学研究. **2**, 55-67, 2002.
- 7) 吉田祥子, 森傑: 園児の協働による遊びから見た遊び環境と自主創造的遊びに関する研究-札幌市の市立幼稚園の3歳児と5歳児の比較-. 日本建築学会計画系論文集. **609**, 25-32, 2006.

付記

本論文は、「ダンボールを利用した身体表現遊びの展開」として第70回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。

